

令和3年3月(2021年) No.663

早く来いこい ワクチンさんよ

会長 合原一夫

2回目の緊急事態宣言が関西ではようやく3月1日で解除され(関東では3月21日迄続くようだが)、気分的に少しは楽になった。宣言中は会場が午後8時で閉館となるので、夜の例会を急遽昼間の例会に切り替えるなどの処置が必要だったが、解除後は夜9時半までOKとなるので元に戻ってやれやれである。

ただし、「緊急事態措置を実施すべき区域」から除外されたものの、「3密」対策、ソーシャルディスタンス、大勢での会食自粛等、イエローステージ(警戒)2への対応方針に基づく飲食店などへの営業規制要請やイベントの開催主催者に対し、業種別ガイドラインの遵守徹底、不要不急の外出・移動は自粛することは継続されている。

だが宣言解除とは関係なく「3密」対策、ソーシャルディスタンスだの、大勢での会食自粛等、何かと普通の生活や活動が出来ない社会的雰囲気がある。

恒例の一泊撮影会も昨年に引き続き今年も無理のようである。一泊撮影会の楽しみは夜のお酒を飲みながらの懇親会である。食事は黙って食べよ、会話するときはマスクをして大声を出すな!では一泊撮影会の楽しみが無い。撮影会は懇親会が第一であって作品は第二である。そこで今年は日帰り撮影会にすることにした。

発表会も会場では人数制限が要求され、大勢の方に「いらっしゃい」「来てください」と呼びかけを遠慮せざるを得ない状況である。中央図書館との共催事業では、人数制限を約3分の1以下に抑えられ、止む無く事前申し込み制となっている。又観客の方もコロナを怖れて来場を控えている方が多く、申し込みも甚だ少ない。

根本的解決はやはりワクチン接種が高齢者を中心に広く行き渡るところまで行かないと無理だろう。ワクチンさえ皆が打てれば少なくとも精神的にも気分が楽になり、映写会にも行ってみよう、撮影旅行もしてみようということになるだろう。「早く来い ワクチンさんよ」である。

3月例会のご案内

- 第二例会; 第3木曜日18日、13時より難波市民学習センターにて。
- 通常例会; 第4土曜日27日、18時より //

どうぞお越しく下さい。

ZOOM ミーティングで「編集」の勉強会

関東地区のクラブでは、例会が開催出来ない会場が多く、代替えとしてZOOM ミーティングが一般化しているようである。

以前は考えられなかったことで、コロナのせいで、こういう技法が発達してきたことに時代を感じる。

わが大阪ムービーサークルも進藤氏を中心にこの技術の普及に務められており、毎月第1, 第3土曜の午前中に定期的ミーティングが軌道に乗ってきた様である。

この度健康上の理由で例会を欠席中の西村光雄会員が講師となって、エディウスによる「編集」のうち「2作品以上」を1枚のディスクに納める方法について解説された。

こういう質問も可能なZOOMのあり方は大変有意義な事と思う。また、事情によって例会場に来られない方や、山口県周南市の河口会員が参加されているなど遠隔地の会員諸氏とのコミュニケーションのツールとしても有効な手段である

最近のノートパソコンは、こうしたZOOMの様な使用法の為カメラが付いている。時代が変われば変わるものである。カメラのついていないパソコンでも別売りのカメラが比較的安く手に入るようだから、わたしもやってみようと思われる方はどうぞ。アドバイスできる方はたくさんいらっしゃる筈だから。

撮影会予告

今年は一泊旅行を止めて、日帰り撮影会で計画します。

■ 堺で与謝野晶子をテーマに計画

堺市には与謝野晶子にちなんだものが多数あり、堺出身の歌人・晶子の研究家を講師として招き、晶子ゆかりの地を巡ります。名調子で、現地でお話をされる講師の声がそのままナレーション代わりに使えるかもしれません。お話の中に、モニュメントや像、歌碑、生家など、どう採りいれていくかが、ポイントになるでしょう。

■ 日時

2021年5月22日(土)又は29日(土)に「晶子フォーラム」の開催予定されています。内容は講演やコーラス。但しここにはカメラマンが大勢入ることは難しいので必要なら代表カメラマンが撮り参加者にコピーを提供し使って貰う事になります。別途講師に引率してもらって何か所か巡ってお話を聞くのがよい。従って今のところ日時は未定です。

■ 撮影地

- ・歌碑・文学碑が堺市内だけで25箇所
- ・さかい利晶の杜、与謝野晶子記念館
- ・晶子生家跡
- ・浜寺公園（与謝野鉄幹と出会った地）
- ・覚広寺（例年だと命日5/29に白桜忌開催）
- ・堺市民芸術文化ホールの前庭
- ・男女共同参画センター（晶子立像）
- ・南海本線堺駅西口（ブロンズ立像）

■ お世話役

岡本至弘企画担当のもと上総秀隆委員のご協力を得て企画実行中。決まりましたら参加者募集を始めます。

2月 例会レポート

2月例会は第4土曜日24日13時より開催。いつもだこの通常例会は18時より開催だが、非常事態宣言下で、夜は20時閉館となったので急遽、昼間の例会に切り替わったという事情有り。もともと、いつも昼間の例会にしたらどうかと、いう声もあるが、会場確保の点や、まだ昼間働いている人の事情で当分夜間の例会を予定している。

さてコロナのせいで外出を控えている人もあって会員さんの集まりは11名にとどまった。しかし、やはり同じ趣味仲間と会えることはうれしい。

■ 運営担当：司会・合原、書記・紙本、映写・坪井・岡本、メモリー記録・江村、受付・照明・森下・宮崎の各氏

■ 出席者：岡本、紙本、進藤、高瀬、森下、宮崎、山本、上総、江村、合原、坪井 以上 11氏



【上映作品】（今月の書記は紙本氏）

1. 早春の湖北 BD
進藤信男 10分45秒



毎年 同じ枝にとまる大鷺

<作者コメント>

早春の湖北は、越冬のために日本を訪れていた鳥達、幼鳥で渡来していた鳥も成長して力強くなって体調を整え、家族単位で北へ帰る準備を始める時期。

まだまだ北風が湖面を吹き渡ることも多いが、昼間に湖で群れを成して過ごす時間が多くなる。野鳥ファンは、カメラを持って遠巻きするように集まるのです。

湖北で名物になっている大鷺は、山の木の上に鎮座して周囲を監視するかのように見渡している。いつ餌を求めて飛び立つのか分からないが、じっとカメラを構えて待つのもこの地域に集まるファンの姿です。コロナ禍やインフルエンザウイルスが注視されている人間の社会にあって、けなげに生きる鳥たちの姿は、過ごしやすい自然が保たれていることを証明していることに加えて、さわやかな気持ちを人々に与えてくれる。

北へ帰って、生殖時期を迎える、恋の季節を迎えることにも思いを馳せながら寒い中で夕方暗くなるまでカメラを覗き込んでいるのです。

<書記コメント>

雪を被った伊吹山を背にした湖岸から観察出来るコハクチョウ達の群れに20倍を遙かに超した7~80倍のレンズと手慣れた技で、その生活の様子を詳しく捉えられています。又、大鷺にカメラを構えて辛抱強く待ち大きく羽ばたく姿は見事北風の冷たい中、4年間にわたっての撮影、早春の自然に生きる鳥たちの温もりが伝わる様な作品に感心しました。

2. 冬の鹿寄せ BD
高瀬辰雄 6分40秒



<作者コメント>

奈良の鹿寄せは冬と夏に行われるようです。これは冬の鹿寄せで2018年と19年の2月に撮影したものです。ホルンの音に誘われ、木々の間から出てくるところが撮影のポイントと思いますが、なかなか思うように撮れず、3回挑戦しました

<書記コメント>

明治25年に始まったという鹿寄せの伝統行事は、奈良の風物詩でもあり人気もある様で、大勢の子供達や観光客が見守る中、木々の間から鹿の群れが全力疾走で現れるのが、3回も挑戦されたとあって壮観でもあり、まさに圧巻！ 観客もこのシーンやドングリのご褒美に嬉々とする鹿の姿を見て満足するのでしょうか

3. 堺の地名あれこれ BD
上総秀隆 8分00秒



堺市の地名は1丁2丁・・・丁に目が付かないわけ

<作者コメント>

堺観光ボランティアの川上さんが説く堺の地名のいわれ。「銀座」「大小路」「宿院」「堺」「百舌鳥」1丁目2丁目ではなく、1丁2丁・・・というわけ。

<書記コメント>

先月のボランティアの解説で「大小路」を歩かれたのに続いて、今月は地名を巡る歴史ウォークです。地名はそれぞれ昔からのいわれ等からつけられたもので特に堺の場合は長い歴史がある事が分かります。自分が住む街の歴史を知る事は有意義なものと思われまます。

4. 生きいき人生 BD
合原一夫 8分33秒



<作者コメント>

和歌山県西牟婁郡（にしむろぐん）、熊野古道のほとりにある山

合いの集落。

お年寄りたちが、それぞれ好きなことをやり、人に喜んでもらうことを一つの生きがいとしておられた。高齢者の明るい生き様に感動。

<書記コメント>

好きな事をする趣味というところからいって、石を集めるというのも、又珍しい。近頃では鉱石女子がブームとか、石は自然が作った彫刻コレクション作品展まで開かれている。竹細工で籠を作る人、木製の動物を作り喜ばれる人、何れも行動的な生活になるというが、これらを撮影して映像作品にするのも趣味ならではの楽しみ。生きいき人生を送りたいものです。

5. 楠の古木は齡千年 BD
紙本 勝 9分10秒

<作者コメント>

大阪府下の楠の巨木はこの作品でおわりですが、いずれも巨木というのにふさわしいものでした。特に本編の門真の薫蓋樟は府下では勿論、全国でも有数の巨樹といわれるだけあって素晴らしく、地元の人々に崇拜されているようでした。



6. 天誅組のこと BD
江村一郎 8分20秒

<作者コメント>

以前の作品「幻の五新鉄道」「五條新町」で明治維新発祥の地・明治維新の魁と大看板があり関心を持つ。動乱の幕末に尊皇攘夷一派であった天誅組が討幕図り新政府を立ち上げるも失敗。逆賊として追われる立場となる。明治維新の捨て石となった天誅組、その足跡を追った。



<書記コメント>

五条の市街に立つ「明治維新発祥の地」の大看板、見た人は、「ああそうか」と思っても、天誅組の足跡を追う人は稀でしょうが、これを成した作者の心意気にまず感心。そのゆかりの取材地は、五条市は勿論、堺・狭山本陣・観心寺・千早峠・天の辻・高取城東吉野村と広範囲に及び、尊攘派の倒幕の武力蜂起は画期的と評される変の全容を短時間で分かりやすい作品にしておられることです。

7. 陽光 BD
岡本至弘 5分20秒

<作者コメント>

前月に続き今月も、映像と短歌のコラボ作品つくりました。2月14日に紀州加太に行ってきました。毎年3月3日の雛流しで有名な加太港とその周辺を撮影しました好天に恵まれ気温も上昇、久々に春の情景をカメラに収めることができました。



<書記コメント>

友ヶ島が浮かび、「春の海汽笛鳴らしてー」の短歌がテロップされ、紀淡海峡を船が走り、島では梅が香り、水仙が風に揺れ、砲台跡のレンガの壁には木の葉の陰模様、そして、淡島神社のひな人形と、短歌「陽春の 光和らぐ加太の海 寄せるさざ波 心も和らむ」とあり、何れも春の柔らかい陽光に包まれた情緒のある作品に思われました。

【参考】難波学修センターの対応

令和3年1月13日(水)に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言が大阪府下に発令されたことを受けて、1月14日(木)より大阪市立難波市民学習センターでは平日・土曜日における開館時間を20時までとする利用制限を行ってまいりましたが、3月3日(水)より施設の開館時間を通常どおりの取り扱いいたします。なお、施設の利用にかかる条件につきましては感染症拡大防止のため引き続きご協力をいただきますようお願いいたします。

今後とも安全・安心な施設運営に取り組んでまいりますので何卒よろしくお願いいたします。